

ツマグロヨコバイとヒメトビウンカの越冬期の天敵について

望 月 正 巳

Masami MOCHIZUKI : On the natural enemies of the green rice leafhopper, *Nephotettix cincticeps* Uhler, and the smaller brown planthopper, *Laodelphax striatellus* Fallén, in hibernate period.

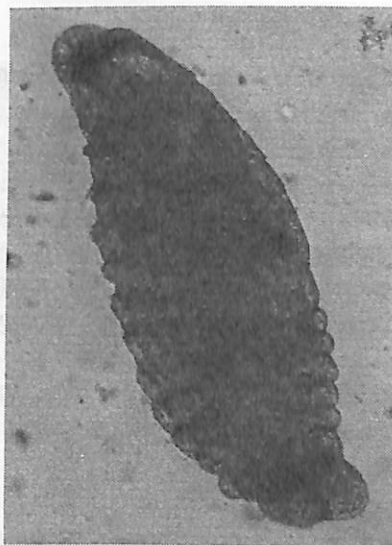
ツマグロヨコバイ (*Nephotettix cincticeps* Uhler) とヒメトビウンカ (*Laodelphax striatellus* Fallén) の天敵の保護利用に関する研究の一環として、昭和53年秋からその実態調査を続けて来た。ここに成果の一端を報告する。

従来全く研究されていないところの増殖が低滞している冬期を中心とした場面を重点に、即ち翌年の発生源となる越冬虫の抑圧にどのような天敵がどれほど関与しているかに注目して、富山県立技術短期大学内の農場(富山県射水郡小杉町黒河)を中心に調査をした。その結果、ツマグロヨコバイの越冬虫体内からはアタマアブの1種 (*Pipunculus* sp.) を、またヒメトビウンカの越冬虫体からはカマバチの1種であるクロハラカマバチ (*Haplogonatopus atratus* Esaki et Hashimoto) を発見した。寄生率は前者で最低10.0%, 最高22.2%, 後者で最低33.0%, 最高60.0%であった。

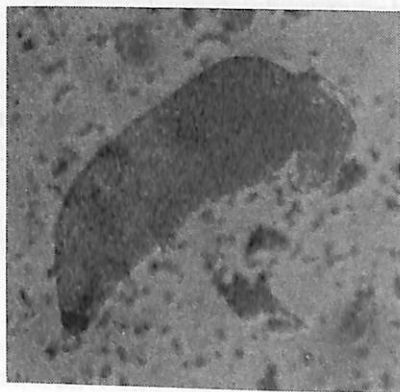
アタマアブの幼虫(アルコール標本で最短体長0.49mm, 最長体長1.10mm)はツマグロヨコバイの4・5令虫体内で越冬し、翌年4月になって急速に成長(アルコール標本で体長2.10mm, 2.50mm)した。4月にはツマグロヨコバイの成虫体が多くなったが、アタマアブの成熟した幼虫を得ることが出来なかった。

また、前年11・12月に生息していたツマグロヨコバイの成虫体内では、アタマアブの幼虫は成熟するに至らなかった。この時のアタマアブの幼虫の最短体長は1.12mm、最長体長はアルコール標本で1.47mmであった。

クロハラカマバチの幼虫(最短体長0.28mm, 最長体長0.49mm)はヒメトビウンカの3・4令体内で越冬した。そして翌年3月末には微小な囊状物(アルコール標本で直径0.08mm)をヒメトビウンカの体外に出した個体(アルコール標本で体長0.84mm)も出現した。囊状物をヒメトビウンカの体外に出したクロハラカマバチの幼虫は急速に成熟した。この時のヒメトビウンカは5令又は成虫になっていた。



ツマグロヨコバイ体内のアタマアブ幼虫
(0.70×0.30mm)



ヒメトビウンカ体内のカマバチ幼虫
(0.35×0.14mm)

(1980年6月15日受領)